**行事報告書（研修）**

報告者：華崎律子

|  |  |
| --- | --- |
| 行事名 | 甲山森林公園・研修会 |
| 実施日時 | 平成29年5月11日（木曜日）10時～14時30分 |
| 場所 | 甲山森林公園内 |
| テーマ | 甲山森林公園の自然観察 |
| 講師 | 児玉勝久講師 |
| 参加者数 | 41名 |
| 内容（項目と概要） | 　児玉講師の今月の樹「マルバアオダモ」の説明から始まった。マルバアオダモは花がすっかり終わって今は葉が展開していることと、マルバ（葉が全縁のように見える）、アオ（枝を水に浸しておくと水が青い蛍光色になる）、タモ（枝がたわむ）という名前の由来を知った。また、虫こぶには植物起源のものと動物起源のものがあり、植物起源のものをゴールということを学んだ。　坪田会員がアリマウマノスズクサの蕾と花や種、ユーカリの葉や種を披露してくださった。　その後、野外観察に出発した。さっそく、ケヤキの葉に虫こぶがあり、これは動物起源のケヤキハフクロフシであることを知る。車道近くにツリガネカズラが黄色い花を咲かせていて、花のにおいをかぎ、「黒砂糖」「カレー」と言い合う。西門への道でアカメガシワが紅色の葉を展開していた。紅色のスタンプの正体は星状毛であり、花外蜜腺があることがわかった。アオハダ、ウラジロノキ、ハコネウツギが白い花を咲かせていた。また、ウメモドキ、マユミが地味な花を咲かせていた。北門への道で、ツボミオオバコとオオバコとの違い、ニワゼキショウとオオニワゼキショウの違い、ハゼノキとウルシの葉の違いの説明を聞く。自然の家から下へ降りてコツクバネウツギ、スノキ、カマツカの花を見た後、緑色のモリアオガエルを見た。そして、仁川の川原でハリエンジュの花の甘いにおいを嗅ぎ、試食をした人もいた。　なかよし池の湖畔で昼食の後、22期の小山さんのミニ研修「野外活動におけるＫＹＴ（危険予知トレーニング）」のクイズを考えたが、やはり全問正解はいなかった。　北入り口から展望台に向かう。エゴノキ、トベラ、タニウツギが花を咲かせていた。ヤマボウシがいっぱいの蕾をつけていたのに驚く。 |
| まとめ感想 | ・ハリエンジュをはじめとして白い花が多い季節である。また、虫やカエルも活発に活動し始める季節だと実感した。 |